

イ 体力向上に向けた体育授業の充実

1 学校の実態に即した「体育科年間指導計画」の作成と見直し

- ① 児童生徒の実態を把握する
 - ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「奈良県児童生徒の体力テスト等調査」結果の分析と活用。
- ② 児童生徒の実態に即した体育科年間指導計画の作成
 - ・学習指導要領解説に示された各学年・各領域の指導内容を理解する。
 - ・学年間の指導内容の系統性や、学校の体育的行事及び他教科との関連性を踏まえたカリキュラムマネジメントを行う。
- ③ 次年度に向けた体育科年間指導計画の見直し
 - ・各学年の履修状況を学期毎に確認し、領域による時数の極端な偏りや未履修を防ぐ。
 - ・前年度踏襲ありきではなく、年度末には当該年度の指導計画を精査し、必要に応じ修正し見直す。

2 体育授業の工夫改善

体育授業工夫改善の チェックポイント

- 年間指導計画に即した単元計画ですか？
- 学習目標やねらい、活動のめあて、評価規準は明確ですか？
- 十分な教材研究を基に、児童生徒の実態に応じた指導の工夫改善を毎時間行っていますか？
- 運動量、学習従事量は十分ですか？
- 学習カードを効果的に活用するなど、めあての確認と学習のふりかえり活動を、毎時間行っていますか？
- 「主体的・対話的」の本質から外れた、児童や生徒任せの活動となっていませんか？
- 全ての児童生徒が意欲的に取り組み、変容を実感できる体育学習となっていますか？
- 学校として安易な合同体育を行っていませんか？

- ① 学習目標の設定
 - ・児童生徒に身に付けさせたい力、指導者のねらいを明確にし、学習指導要領に準拠した学習目標を設定する。
 - ・児童生徒のレディネス(学習のために必要な準備状態)を把握し、学習目標達成に向けた単元計画及び評価規準を立案する。
- ② 指導と評価の一体化
 - ・指導計画に沿った授業を展開するとともに、授業ごとに児童生徒の変容を見取り、新たな課題提示や指導の修正を行う。
 - ・毎時間の学習評価を次の支援に積極的に生かし、個に応じた授業の工夫改善を行う。

器械運動領域の授業展開例

- 1 準備運動・場の準備
- 2 めあての確認
- 3 感覚づくりの運動
- 4 主運動①
- 5 共有タイム(主運動①のふりかえりと共有)
- 6 主運動②
- 7 ふりかえり
- 8 整理運動
- 9 片付け

十分な運動量確保は絶対条件

課題解決に向けた具体的な言語活動(質を重視)

本時の学習を明確化し、児童の気付きを促す本時のめあてとリンクした指導者の発問
「なぜ?」「どうしたら?」「だれが?」



【感覚づくりの運動例】
主運動につながる動きを単元を通して行う。

